

第1話 虹の桜

東京都北区にある警察庁刑事局長の家で住み込みのお手伝いをしている吉田須美子。一月のある日、いつものように、友人で「花春」という生花店を営む小松原育代のもとでお茶を飲んでいたところ、八歳の少女・美桜がやってきた。五百円玉を握りしめた美桜は「虹の桜がほしい」という。話を聞くと、病気で入院している祖父・久吉に元気になってもらうために、「虹の桜」を探しているとのことだった。美桜の思いに胸を打たれた育代は、須美子は名探偵なのだと言う。そして、「わたしたち二人が組めば見つからない花なんてないから、任せてちょうだい」と勝手に話を進めてしまった。自分は名探偵ではないし、無責任な安請け合いはできないと悩む須美子だったが、自分にできることをしてみようと引き受けることに……。はたして、二人は「虹の桜」を見つけることができるのだろうか――。

第2話 花筏

二月中旬、須美子は育代と共に、北区にある「北とぴあ」で舞台を鑑賞していた。シェイクスピアの四大悲劇に登場する女性に焦点を当てた、四つのオムニバス形式の舞台。ラストの「ハムレット」はスクリーンに花筏を映した美しい演出で、須美子は心を奪われていたのだが、育代は近くに座っていた男性に対して、スマホで舞台を隠し撮りしていたと怒り出した。終演後、誤解だと気づいた育代が謝罪をしにいったところ、男性は「ハムレット」でオフィーリアを演じていた自分の娘の姿を見つけ、逃げるように帰ってしまった。その後、父が母を殺したのではないかと娘が疑っていることを知った須美子と育代は、舞台中、オフィーリア役を演じた彼女が、ある方法で父親にだけ届くメッセージを送っていたことに気づく。奇抜なその方法と、すれ違う父娘の思いとは――。

第3話 天上の桜人

三月、間もなく飛鳥山の桜が見頃を迎える季節に、花春へ美桜の母親・佳乃がやってきた。相変わらず病床にいる父・久吉が、うわごとのように「奇跡の桜」と口にしていているというのだ。そして、不思議なことに毎年3月25日だけ、雨でも桜を見に飛鳥山公園へ行っていたのだという。しかも、なぜか包帯を持って……。「父が生きているあいだにできることをしてあげたい。力を貸してください」と頭を下げる佳乃。今年の3月25日まではもう一週間もない。須美子は責任の重さと浅見家の仕事で時間が取れそうにないことから、今回は断ろうと思った。だが、育代は恋人で帝都大学の元教授・日下部亘と共に、名探偵の助手である自分たちが、須美子の代わりに捜査をするという。やがて二人は飛鳥山での聞き込みの結果、ある答えに辿り着く。そして須美子もまた、時を超えたある物語を知るのだった――。

——わたしは、そこまで誰かを愛せるだろうか。
 そこまで愛せる誰かを、見つけられるのだろうか。

★「浅見光彦 友の会」の皆様には会報と共に『天上の桜人』と新グッズの「特別セット」のチラシを同封しています。

須美ちゃんは名探偵!? 浅見光彦シリーズ番外

内田康夫
財団企画

4月10日
光文社文庫で
発売予定!

『天上の桜人』

浅見家のお手伝い・吉田須美子が活躍する、内田康夫財団企画「須美ちゃんは名探偵!? 浅見光彦シリーズ番外」。第5弾は桜にまつわる連作短編集です。「虹の桜」、「花筏」、「天上の桜人」の3つの謎を追う須美子。今も昔も桜は出会いと別れの象徴。須美子にとって今回の事件は、胸にちくりと痛みを覚える出来事になったかもしれません――。

登場人物

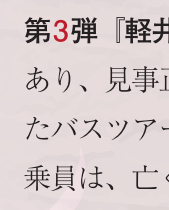
吉田須美子……主人公。27歳。新潟県出身。東京・北区にある浅見家で住み込みで働いているお手伝い。
小松原育代……霜降銀座商店街で生花店「花春」を営んでいる。59歳。須美子を名探偵だと思っている。
日下部 亘……帝都大学の元教授。61歳。フィールドワークの一環として現代の都市伝説を調査している。
浅見 光彦……フリーのルポライター。33歳。須美子が働いている浅見家の次男坊で居候。趣味は探偵。

「須美ちゃんは名探偵!？」シリーズ

第1弾『須美ちゃんは名探偵!?(短編集)』……育代の店で不思議な花の買い方をする紳士の謎（「花を買う男」）、「動くD51」と「探し物をするおばあさん」という都市伝説が繋ぐ不思議な運命（「風の吹く街」）、予知夢のようにインコの言葉が現実にかかる秘密（「鳥が見る夢」）、育代の亡き夫が遺した「笑う月」に隠された真実（「月も笑う夜」）――の四編を収録。



第2弾『浅見家四重想(短編集)』……光彦の甥・雅人から相談された俳句の盗作事件（「雅な悩みごと」）、光彦の姪・智美が見知らぬ人物からもらったラブレターの謎（「智は愛されし」）、光彦の義姉・和子のコートに入れられていた写真の真実（「和を繋ぐもの」）、光彦の母・雪江が商店街で聞いた二人の少女の不穏な言葉の秘密（「雪に希いしは」）――の四編を収録。



第3弾『軽井沢迷宮(長編)』……商店街の暗号クイズに挑戦した須美子。光彦からのヒントもあり、見事正解に辿り着き、賞品である「軽井沢バスツアー」に当選する。育代と共に参加したバスツアーの車内では、新たな問題が提示された。須美子の謎解きの才能に驚いたツアー添乗員は、亡くなった母親が残した謎を解き明かしてほしいと相談する――。



第4弾『奇譚の街(長編)』……買い物の途中「牛蒡モチ」と書かれたメモを拾った須美子。落とし主と返せないまま、育代の店・花春で「空飛ぶハサミ」という都市伝説を聞くが、真相をすぐに突き止める。その後、須美子は小学生が書いていた「友汐」という文字や「北区で一番大きな剣」、「形が変わる島」、「死神と呼ばれた少年」の謎を追うことに――。